

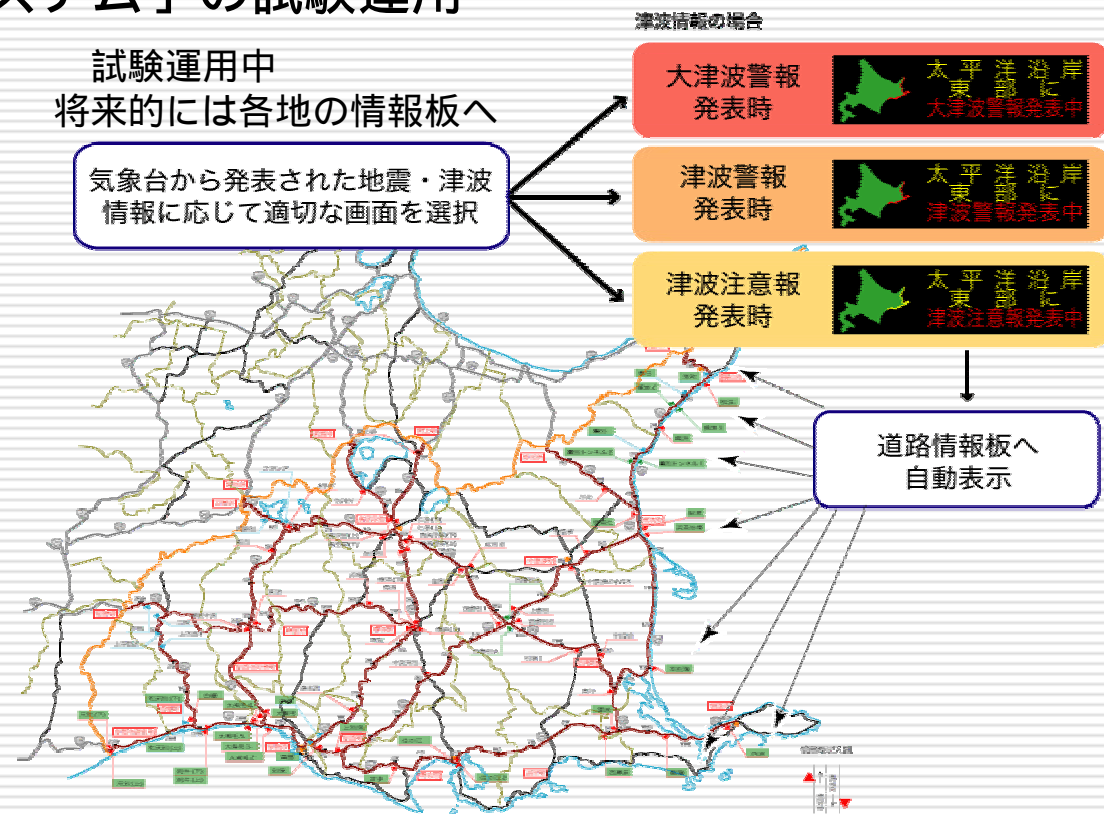
住みたくなる地域・生活環境の充実

地震・津波や豪雨・豪雪の災害に強い地域づくり

「地震・津波情報表示システム」の試験運用

今年3月より、左記道路情報板にて、気象台から発表された地震情報・津波予報を迅速に表示する「地震・津波情報表示システム」の試験運用が開始された。

このシステムは、地震情報(震度4以上)及び津波予報(警報・注意報)を受信すると、太平洋沿岸等の国道に設置している道路情報板へ自動表示させることが出来るシステムで、道内で初の試験運用となった。



東アジアなどとの関係強化

民間レベルにおけるビジネス交流の促進

釧路 - 台湾ビジネスマッチング協会は、地場産品の台湾への販路拡大を図るとともに、台湾とのさまざまなビジネス交流を通じ、釧路地域ビジネスの国際化・活性化を推進することを目的として、平成17年7月に設立された。

平成17年9月の商談会では1社、平成18年2月は5社から見積依頼(いくら、かに、昆布加工品など)があったが、今後は価格、流通など課題をクリアして、具体的なビジネスにつなげていく取り組みを進めていく予定でいる。

平成17年9月

釧路の水産関係団体と連携し、台湾及び香港のバイヤー(7社11名)を招致しての商談会開催

平成18年2月

台湾流通関係事業者約30社を現地ホテルに招致し、釧路からの出店事業者12社によるサンプル商品PRと個別商談会の実施

【台湾における
釧路観光物産展の様子】



資料) 週刊水産新聞などより作成

地域を支える基盤づくり

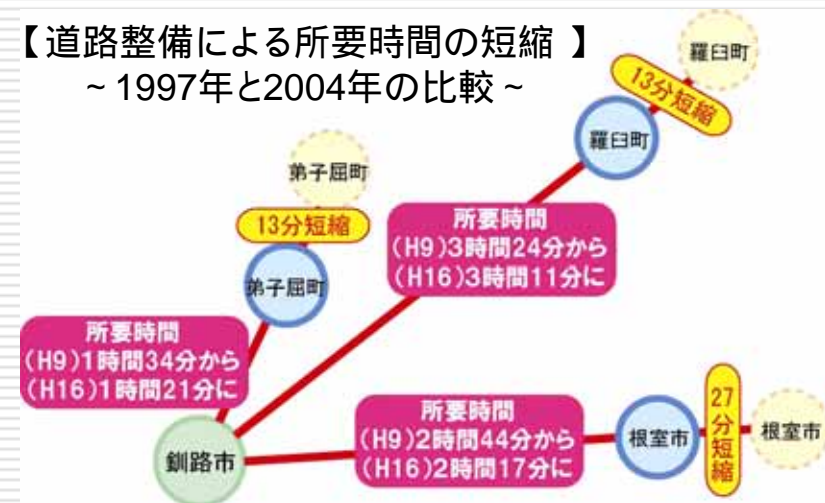
他地域との役割分担と広域連携の推進

釧路市には管内の病院・医師の半数以上が集中しており、年間2,000件以上の救急搬送や30万人以上の通院患者がいる。分散する居住地や今後の高齢化などを踏まえ、所要時間の定時性確保がより一層必要である。

【釧路市への救急搬送数】



【道路整備による所要時間の短縮】
～1997年と2004年の比較～



【釧路市への医療集積】

	病院	病床数	医師
釧路管内	34	5,856	489
釧路市 (管内CU)	18 (53%)	3,950 (67%)	364 (74%)

資料) 北海道保健統計年報(北海道)ほか

将来像を支える基盤づくり

域内循環経済の促進

カムイ・エンジニアリング株式会社は、標茶町で誕生した大学発の環境ベンチャーで、釧路湿原や国の天然記念物のタンチョウ、日本最大の淡水魚イトウをはじめ、2000種以上の動植物が息づく湿原の環境を守りながら、地域産業を発展させていくことを目的としている。

産学官連携のもと、地域ニーズや社会的使命に支えられた地域の結束力を生かし、新しい地域発展モデルを目指しているが、事業としては 廃木材と廃プラスチック(牧草ロール)を利用したカムイウッド(木質複合材)製造のほか、植物の根の力で汚れた湖や川を蘇らせるルートネットフロートシステム、海草・海藻を蘇らせる網状リーフ構造培地の利用のほか、地元標茶高校の協力による水質浄化事業なども手掛けている。

【木粉と牧草ロールなどの廃プラスチックの混合】
(カムイウッドの原料)



【カムイウッドの製品例】



資料) <http://cameui.jp/index.php?osCsid=6acbd4de1dcdee492c7f440fca280c29>ほか

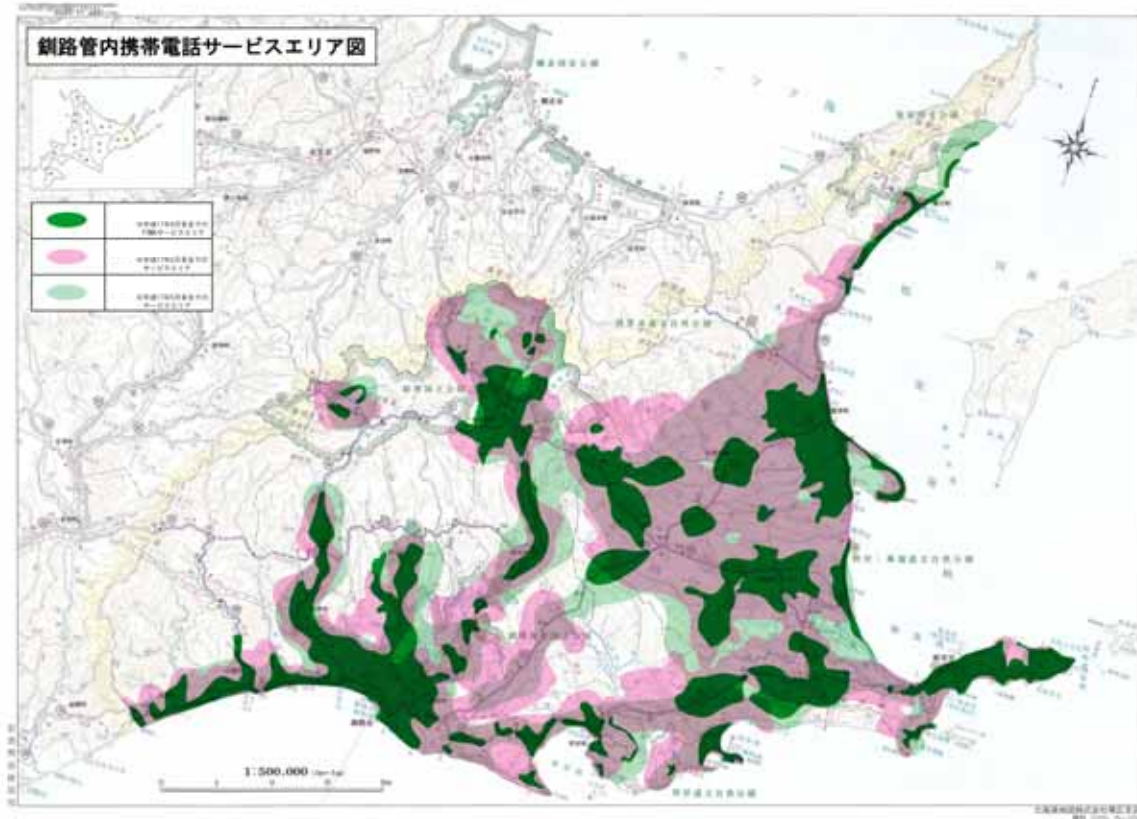
将来像を支える基盤づくり

情報システムの確保によるユビキタスの実現

携帯電話サービスエリア

観光など各種情報デバイスとしての活用も期待される携帯電話だが、管内のサービスエリアをみると、国道における不通区間が約131キロとなっており、総延長の約16%に達している。

【携帯電話のサービスエリア】



資料) 釧路開発建設部調べ